

神戸教区第87定期教区会

教区主教開会演説

主教 オーガスチン 小林 尚明



本日は祝日のところ早朝より教区の各地から本教区会の為にご参集をいただき心から感謝申し上げます。

丁度2か月前の9月23日(土)に行われました私の主教按手・着座式に際して、教区内の教会、関係学校、諸団体の皆様から暖かい祝福と物心両面からのご支援をいただきましたことに對し、改めて厚くお礼申し上げ

げます。

「難産の子は育つ」と言いますが、それはやはり周りの人たちの特別な支えと祈りがあつてはじめてのことです。主教という重責を果たしていくため、皆様のご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

次に3月末で退職された中村豊主教の後、6か月に渡り神戸教区の管理主教として、誠実にご奉仕くださいました磯晴久主教様と大阪教区の皆様に対して、本教区会の名をもって皆様と共に心からの感謝の意を表したいと思えます。磯主教様は毎月の常置委員会はもとより、レクイエムの司式をはじめ、教役者修養会、中高生大会、広島伝道区研修会など心からご奉仕くださいました。大阪教区は隣の教区であります。今後

とも、両教区間での交流と協力関係が維持できればと願っております。

「人事」

次に人事の報告ですが、3月末に中村豊主教が13年間の任期を終えて退職されました。中村主教は多くのことを成し遂げられました。それらの業績は中村主教が心を砕かれ、先日配布されました「日本聖公会 神戸教区宣教140年史」に詳しく記載されています。その中でも教役者の発掘に力を入れられ、現在京都のウイリアムス神学館で3名の教区神学生が学んでいます。教役者減少の危機が叫ばれている今の日本聖公会にとって、主教の残された大きな財産として大切に神学生を育てていきたいと考えます。そのために、聖職候補生養成委員長及び聖職試験委員長を姫路顕栄教会の芳我秀一司祭にお願いし、試験委員の選出を始めていただいています。

そして9月の私の主教就任によって、徳島の3つの教会に大変なご負担をかけてしまいました。徳島イ

ンマヌエル教会には、管理牧師を芳我秀一司祭にお願いし、富岡キリスト教会と鳴門聖パウロ教会には、神戸昇天教会の小南晃司祭にお願いしました。勿論、この管理牧師だけで主日の礼拝は守れませんので、神戸より坪井智司祭、高松より角瀬克己司祭、また徳島聖

テモテ教会の河村博之司祭にもご奉仕をいただいで、なんとか主日の礼拝を守っていたいただいている状態です。来年4月には牧師を派遣すべく準備をしているところです。徳島の皆様には、もうしばらくお待ちいただきたく思います。

「教育・研修」

次に、教育・研修についてですが、主教按手から2か月を迎えまして、最初の教区会に本来は主教としての所信表明を行うべきと考えましたが、いまだ全体の構想をお話しするところまでは至っておりません。そこで私が何を考えているのかということ、それはまるでジグソーパズルの一つ一つのピースのようなお話でしかありませんが、今教

区のことを思い、考えていることをお話しさせていただきます。

執事按手や司祭按手の場合、教区がリトリートを準備して、神様との静かな時を過ごしますが、私の主教按手前のリトリートは、誰も準備をしてくれませんでしたので、9月18日(月)〜20日(水)まで3日間を自分で定め、宝塚の黙想の家で静かな時を過ごしました。その祈りの中で今回の主教選出は神様の御心であるということ、そしてイエス様はいつも私と共にいてくださり、私を導きその時々

の必要を満たしてください。方だという確信が与えられましたことは、主教按手の前の大きなお恵みでした。その喜びをもって神戸に帰ってきました。するとまるでそのイエス様から遣わされたかのように21日(木)、主教按手式の2日前ですが、退職司祭の信岡章人先生が大聖堂まで来てくださり、礼拝での主教の立ち振る舞い、式服の着方、選び方まで丁寧にご指導くださいました。そして指導が終わって、主教執務室でお話を聞